

日本周辺クロマグロ調査委託事業（抄録）

森 脇 晋 平

水産庁が実施する北太平洋のまぐろ類等の資源評価に必要な資料を整備することを目的とする事業の一環として、本県海域のまぐろ類等の漁獲データ・生物学的情報を収集した。

詳細は「平成5年度 日本周辺クロマグロ調査委託事業報告書 水産庁 1994年3月」に報告されているので、ここでは結果の概要を述べる。

調査の内容

1. 市場伝票整理

- 1ヶ月毎に水揚げされた市場伝票を整理し、市場毎のクロマグロ漁獲データファイルを作成した。
2. クロマグロの生物測定を行い、体長・体重データファイルを作成した。
3. 本県におけるまぐろ漁業について聞き取りをおこなった。

調査結果

1. 主として大型定置網によって漁獲されたクロマグロ（ヨコワも含む）の月別・市場別漁獲重量を整理し、解析機関へ送付した。
2. 聞き取りによる本県のまぐろ漁業の概要は以下のとおりである。
 - 2-1. 主要なまぐろ漁業：定置網漁業
 - 2-2. クロマグロを漁獲する漁業：定置網漁業、曳縄釣り漁業、まき網漁業
 - 2-3. 漁業別の漁獲するクロマグロの大きさ：
 - ①定置網漁業 数Kgから260～270Kg.
 - ②曳縄釣り漁業 数Kgから10数Kg.
 - ③まき網漁業 10数Kgから250Kg.
 - 2-4. 漁業別のクロマグロの漁期
 - ①定置網漁業 5月下旬から7月下旬、1～2月
 - ②曳縄釣り漁業 10月下旬から11月下旬
 - ③まき網漁業 5月下旬から7月下旬
 - 2-5. 市場におけるまぐろ類の銘柄と区分基準：市場によっても異なるが、20Kg前後以上を『まぐろ』、それ以下を『よこわ』としている。
3. 平成5年度の漁況の特徴
平成5年の大型定置網によるクロマグロ漁獲量は前年に比較して大幅に増加した。盛漁期の6～7月で個体数では前年同期の約2.5倍、重量では同じく3.3倍となった。島根半島沿岸部の定置網漁場での漁獲が目立った。平成5年6～7月の海況は100m深水温パターンで見ると前年同期に比べ冷水帯が接岸傾向にあった。